四国最古の曹洞宗寺院　――眞光山城満寺を参詣して

岸本吉生

豊かな自然に育まれた海部の文化

四国は真言宗の八十八か所遍路で知られていますが、徳島県南部に四国最古の曹洞宗のお寺があります。道元禅師の他界から三十八年後の一二九一年、海部（かいふ）の郡司の依頼に応じ、瑩山禅師が開山した眞光山 城満寺（じょうまんじ）です。戦国時代に焼失したままでしたが再興の努力がなされ、一九四六年から住職が赴任し、田村航也住職は五代目です。地元ご出身の戸田吾雄和尚が大正時代に復興を目指され、檀家すらないところから地域の方々と歩んだ復興の道のりにはさぞご苦労があったと思います。

海部は、遅くとも五世紀には南海からの船が寄港した場所です。各地とつながる港町でした。海部刀という水軍用の刀と船の用材を瀬戸内海地域に供給した海部は江戸時代まで豊かでした。それゆえに戦に巻き込まれたこともありました。海部の郡司が道元禅師が開いた仏道を広げてもらいたいと希求し、城満寺の開山を依頼したのもそうした戦と関わりがあるように思います。

海部（現在は牟岐町、美波町と海陽町〈海南町、海部町、宍喰町が合併〉）は訪れる人が多い地域ではないかもしれませんが、足を運ばれたら、温暖な気候と山川海の美しさ、その魅力に惹かれた移住者の数に驚かれると思います。

「素晴らしい住職が總持寺からおいでになっているから」と、海陽町宍喰にUターンした永原レキさんのご案内で城満寺に参詣したのは五月二十日でした。驚いたのは境内の佇まいです。緩やかな上り坂に清廉に配置された空間は、再興された方々がこの地に傾けた祈りの深さを感じます。田村航也住職は十歳で得度され東京大学でインド哲学を学ばれた後、永平寺と總持寺で修行をされ、二〇一一年に三十一歳で当山に入られました。山門でお出迎えくださり、直ちに本堂にて般若心経を唱導され、お経を誦む意味、回向（えこう）とは何か、自分と他人の心が一つになることの意味合いをお話しくださいました。来訪者の背景や訪問の趣旨を聞くまでもなく、仏法のありがたさをお説

きになる姿勢に敬服いたします。宗派の区別なく生活に密着した仏道を話してくださいます。

心穏やかに共に生きる社会へ

私はいま、離島半島農山漁村の集落の将来を研究しています。訪問先の高校生、独立して働く二十歳代の皆さんとお話しする中で、この世代の方々が人生の目的をものやお金の豊かさではないものに求めていることを実感します。官公庁や会社に属するのも人生ですが、属する地域のために健康、福祉、教育の道で世間のお役に立ちたいと願う方々の真摯な心に尊敬と支援の気持ちが湧きます。人より良い人生よりも、他人と共に地域、自然、地球のために奮闘する。そうした方々を仏教が応援することができないものかと考えています。

私は一昨年「他己社会（たこしゃかい）」という言葉を考案しました。物差しを当てて自他を比べるのではなく、いろいろな違いがあっても他人と自分の価値は同じだと考える社会のことです。共生という言葉がありますが、「共に生きる」ために、他人と自分は価値が同じと考えることから始めてはどうかと思います。田村住職は私のこの考えをお聞きになり、道元禅師が「他己」という言葉を使っておられたことを教えてくださいました。

『正法眼蔵（しょうぼうげんぞう）』に次のくだりがあります。

仏道をならふといふは、自己をならふなり。自己をならふというは、自己をわするるなり。自己をわするるといふは、万法に証せらるるなり。万法に証せらるるというは、自己の信心および他己の信心をして脱落せしむるなり。

『正法眼蔵』「現成公案」

「他己」という言葉は広辞苑にありませんが、道元禅師は自己と他己が相携える大切さをお説きになっています。家族や親戚、近所や地縁を中心とした社会は、近代化によって個の自立と個人間の切磋琢磨を中心とする社会へと重心を移しました。都市の生き方は、地縁・血縁ではない知り合いとの縁（知縁）を中心とする生き方です。道元禅師のこのお言葉が、若い世代の人生の支えになると感じます。

城満寺では来山者が日常的に参禅する機会があります。目を開けて耳を澄ます坐禅は初めての経験でした。仰せのとおりにしましたら、雑念が湧きにくく生かされている自然のありがたさに心が温かくなりました。厳しい修行を重ねた田村住職が、在家のわれわれが少しでも仏縁に近づくようお計らい下さっていると感じます。

人生の目的、豊かなひととき、日々の暮らし。そうしたものへの感謝は先人が築き上げてきた神仏の道に寄り添うことで育まれやすくなるように思います。「身心脱落」とは自分が我を捨てるだけでなく、自他の執着がなくなり心穏やかになることかもしれません。眞光山城満寺が放つ仏光が倍増し、多くの方々が毎日に満ち足りたものを得られることをお祈りいたします。

以上

プロフィール

NPO 法人ものづくり生命文明機構常任幹事